



Title	<図書紹介>『ジーニアス英和大辞典 Taishukan's Unabridged Genius English- Japanese Dictionary』
Author(s)	濱嶋, 聰
Citation	大阪大学言語文化学. 2002, 11, p. 119-120
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/77980">https://hdl.handle.net/11094/77980</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 図書紹介

ここでは、言語文化学会会員が出版に関して大きく関わった図書について、本人が紹介いたします。

---

小西友七・南出康世主幹編集 『ジーニアス英和大辞典 Taishukan's Unabridged Genius English-Japanese Dictionary』 大修館書店、2001年5月、2508頁、16,500円。  
ISBN 4-469-04131-9

---

まず、1)『ジーニアス英和辞典《改訂版》』を基に、広く現代日本人の使用に堪えるものとする、2)米国・英国はもちろん、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、南アフリカなどの英語にも気を配る、3)非標準語使用者を示すための視覚方言または文学方言をも、文学作品に多く現れるものを選んで取り上げる等の編集方針の基、1994年に執筆作業が始まった。

Usage Label に関しては、1) user variation として《標準》(非標準)を設け、さらに《標準》のuse variation として、2つのモードにわたる場合：(正式)、(略式)、一つのモードに限定される場合：(文)、(口)等のラベルをつける、2) 分割語法で規範文法の立場から誤りとされる語法については、「(標準語法であるが) 反対意見がある」主旨のことを注記する、3)『ジーニアス英和辞典《改訂版》』では《まれ》を時代的差異に入れているが、これは《時に》、《しばしば》と共に共時的観点から見た頻度のため、頻度範疇として別範疇とする、4) [けなして]は日本人学習者の観点から見て受信及び発進のために必要な場合にのみ付ける(ただし人種差別にかかわる《侮蔑》は残す)、4) 成句に散発的についている《受け身可》は、特定の辞書のラベル pass の引き写しが明らかで、統一性がなく、イディオムの受け身にはいろいろな制約が伴うため廃止する等が追加された。

私が担当させていただいたニュージーランド英語に関しては、The Dictionary of New Zealand English. Oxford Univ. Press. 1994、またオーストラリア英語との判別用としてはThe Macquarie Dictionary. The Macquarie Library. 1981<sup>1</sup>, 1991<sup>2</sup>, 1998<sup>3</sup>を主な参考辞書とした。ニュージーランド英語のなかには、その歴史的理由から、イギリス英語、オーストラリア英語の影響を受けたものが多く存在するが、特にオーストラリア英語との判別が難しいものに苦労した。放牧、採鉱等の語彙にその傾向が強いのは当然と言えるが、オーストラリア英語の日常会話で頻繁に使用される多くの表現が

ニュージーランドに共通するということがよりその判別を困難にしているように思える。(濱嶋 聰)